

株式会社プロトコーポレーション (4298:JP)
2016年3月期 第3四半期決算概要

2016年1月29日

連結主要データ

発行済株式総数 (百万株)		20.9
時価総額(億円)	※2015年12月末	348.4
1株当たり年間配当(円)	※2016年3月期予想	38.0
1株当たり当期純利益(円)	※2016年3月期予想	170.72
1株当たり純資産(円)	※2015年3月期実績	1,361.64
ROE(%)当期純利益ベース	※2015年3月期実績	8.8
ROA(%)経常利益ベース	※2015年3月期実績	10.6
自己資本比率(%)	※2015年3月期実績	66.3
潜在株式数		-
外国法人等の株式保有比率(%)	※2015年12月末	31.4

大株主 (上位10名)

	(千株)
1) 株式会社夢現	6,807 (32.50%)
2) JPMCC CLIENT SAFEKEEPING ACCOUNT	1,323 (6.31%)
3) 株式会社プロトコーポレーション	735 (3.51%)
4) JP MORGAN CHASE BANK 385632	568 (2.71%)
5) CLEARSTREAM BANKING S.A	462 (2.20%)
6) BNYM TREATY DTT 15	456 (2.18%)
7) 横山博一	440 (2.10%)
8) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	404 (1.93%)
9) 横山順弘	400 (1.91%)
10) BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND(PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	393 (1.87%)

(2015年12月31日現在)

2016年3月期 第3四半期 連結業績

連結損益計算書 (単位：百万円)	2014年 4-12月：実績	2015年 4-12月：計画	2015年 4-12月：実績	前期対比	前期対比(%)	計画対比	計画対比 (%)
売上高	36,541	41,728	40,763	4,221	111.6%	▲965	97.7%
売上原価	21,236	24,071	24,780	3,543	116.7%	709	102.9%
売上総利益	15,304	17,656	15,982	677	104.4%	▲1,674	90.5%
販売費及び一般管理費	11,523	13,762	12,599	1,075	109.3%	▲1,162	91.6%
E B I T D A	5,114	5,539	4,912	▲202	96.0%	▲627	88.7%
営業利益	3,780	3,894	3,382	▲398	89.5%	▲511	86.9%
経常利益	4,054	3,943	3,498	▲555	86.3%	▲444	88.7%
四半期純利益	2,543	2,369	1,934	▲609	76.0%	▲435	81.6%

※2016年3月期の計画値は、2015年5月8日公表の数値であります。(以下同様)

(単位：百万円)	2014年 4-12月：実績	2015年 4-12月：計画	2015年 4-12月：実績	前期対比	前期対比(%)	計画対比	計画対比 (%)
販売費及び一般管理費	11,523	13,762	12,599	1,075	109.3%	▲1,162	91.6%
人件費	5,304	6,301	5,762	458	108.6%	▲539	91.4%
広告宣伝費関連	1,921	2,151	1,953	31	101.6%	▲197	90.8%
その他	4,297	5,309	4,883	585	113.6%	▲425	92.0%
人員数	1,361名	1,623名	1,495名	134名	109.8%	▲128名	92.1%

- 売上高： 主に今期より子会社化した(株)タイヤワールド館ベストの国産タイヤ・ホイール販売が増収に寄与
- 営業利益： 主に(株)プロトコーポレーションのGooPit等への先行投資費用が発生したことに加え、暖冬の影響に伴う(株)オートウェイの輸入タイヤ（スタッドレスタイヤ）の販売数量減少・販売価格の低下により、減益となった

2016年3月期 第3四半期 主なグループ会社の動向（1）

(株)プロトコーポレーション：中古車販売環境が厳しい中、MOTOR GATE取引社数を拡大

4-12月においては、軽自動車税の改正等の影響により、新車販売台数が前年比6.7%減となる等、自動車販売業界が厳しい環境で推移する中、主にGooシリーズの広告売上、中古車販売店向けの用品販売、メーカー・ディーラー向けの新車商談ツール等が堅調に推移した。しかしながら、2015年10月にGooAUTO事業（中古車輸出ポータルサイト）から撤退したことに加え、MOTOR GATEの取引社数は増加しているものの、当初計画に対しては下回って推移していること、GooPitにおいて12月末に当初計画の取引工場数を達成したものの、無料掲載工場の有料化に遅れが生じていること等から、売上高・営業損益が計画を下回った。

第3四半期以降、アウトバウンドコール（商談セッティングコール）に加え、10月よりBI（ビジネスインテリジェンス）を活用した営業体制を全国的に構築し、MOTOR GATEの取引社数拡大を図るとともに、Goo鑑定を軸とした中古車販売店向けの経営支援サービスの強化に取り組んでいる。また、GooPitにおいては、取引工場数が7,000工場を超えてきたことから、東海エリアにおいて第4四半期にプロモーションを実施し、ユーザー認知度の向上及び取引社数の拡大を推進する。

(株)キングスオート：ミャンマー向け中古車輸出が堅調に推移

4-12月においては、スリランカ・ミャンマー向け中古車輸出が堅調に推移したことから、売上高・営業損益が計画を上回った。

なお、スリランカ市場においては、11月の関税引き上げ等による規制強化の影響により輸出台数が減少傾向にあるため、ミャンマー向けの営業体制を強化するとともに、2015年7月に営業拠点を設置した香港において、既存顧客・新規顧客への営業活動の再強化への取組みを通じて、業績向上を図る。

2016年3月期 第3四半期 主なグループ会社の動向（2）

(株)オートウェイ：仕入コスト削減に努めるものの、暖冬によりスタッドレスタイヤ販売苦戦

4-12月においては、輸入タイヤのブランド数の絞り込みにより、仕入単価の引き下げを実現したものの、為替水準が前年同期に比べ14%ほど円安に推移したことなどから、結果として仕入単価は約7%の削減に留まった。また、暖冬の影響により、需要期におけるスタッドレスタイヤ・ホイールの販売数量が計画を下回ったことに加え、価格競争の激化に伴い、販売単価が計画を下回ったことから、売上高・営業損益が計画を下回った。

1月以降においては、引き続きスタッドレスタイヤ・ホイールの拡販に努めるとともに、サマータイヤの早期販売に取り組む。また、MOTOR GATE ショッピング（EC機能）を通じた中古車販売店・整備工場への拡販に加え、主力サイト「AUTOWAY LOOP」のUI(User Interface)見直しによるタイヤ・ホイールのセット販売強化を通じて、タイヤ・ホイールの販売数量の拡大を図る。

(株)タイヤワールド館ベスト（2015年4月子会社化）：暖冬の影響はあるものの、営業損益黒字化

4-12月において、タイヤ・ホイールの販売数量は計画を上回ったものの、価格競争の激化に伴い、販売単価が計画を下回った。第3四半期においては、暖冬の影響によりスタッドレスタイヤの販売数量が計画を下回ったこと等から、売上高は計画を下回った。また、タイヤ組立機による出荷工程の合理化等に努め、営業損益は若干計画を下回ったものの、営業損益の黒字化を実現した。

1月以降においては、MOTOR GATEショッピング（EC機能）を通じた中古車販売店・整備工場への拡販に加え、サマータイヤの早期販売に取り組むとともに、タイヤ・ホイールのセット販売を推進し、タイヤ・ホイールの販売数量の拡大を図る。

2016年3月期 第3四半期 主なグループ会社の動向（3）

PROTO MALAYSIA Sdn. Bhd. : GST（物品・サービス税）導入等により、広告需要が弱含み

マレーシアにおいては、2015年4月よりGST（物品・サービス税）が導入されたことにより、個人消費が低迷する傾向にあり、中古車市場においても広告需要が弱含んで推移している。また、競合との価格競争が生じていること等から、売上高・営業損益が計画を下回った。なお、2015年9月以降、競合との差別化を図るため、マレーシアにおいても車両状態情報の開示サービス「GooKANTEI」を軸とした事業展開を推進し、業績の向上を図る。

台湾寶路多股份有限公司：中古車販売環境が厳しい中、広告需要が弱含み

台湾においては、中古車取引台数が前年実績を下回り、中古車市場の広告需要が弱含んで推移している。また、競合との価格競争が生じていること等から、売上高・営業損益が計画を下回った。
なお、競合との差別化を図るため、台湾プロトにおいても車両状態情報の開示サービス「GooKANTEI」を軸としたコンサルティング営業を通じて、広告を出稿して頂く中古車販売店の質的向上を推進し、業績の向上を図る。

2016年3月期 第3四半期 連結業績(セグメント別)

セグメント別売上高 (単位：百万円)	2014年 4-12月：実績	2015年 4-12月：計画	2015年 4-12月：実績	前期対比	前期対比(%)	計画対比	計画対比 (%)
自動車関連情報	33,200	38,006	37,355	4,155	112.5%	▲650	98.3%
情報登録掲載料	15,612	16,045	15,242	▲370	97.6%	▲803	95.0%
情報提供料	17,588	21,960	22,113	4,525	125.7%	152	100.7%
生活関連情報	2,518	2,690	2,417	▲100	96.0%	▲272	89.9%
不動産	124	123	121	▲2	97.7%	▲2	98.3%
その他	698	908	868	169	124.3%	▲40	95.6%
合計	36,541	41,728	40,763	4,221	111.6%	▲965	97.7%

セグメント別営業利益 (単位：百万円)	2014年 4-12月：実績	2015年 4-12月：計画	2015年 4-12月：実績	前期対比	前期対比(%)	計画対比	計画対比 (%)
自動車関連情報	4,771	5,004	4,266	▲504	89.4%	▲737	85.3%
生活関連情報	258	322	259	0	100.3%	▲63	80.4%
不動産	74	65	81	7	109.4%	15	123.7%
その他	▲80	▲135	▲49	31	-	85	-
管理部門	▲1,242	▲1,363	▲1,175	67	-	187	-
合計	3,780	3,894	3,382	▲398	89.5%	▲511	86.9%

■自動車関連情報：

主に情報提供料において(株)タイヤワールド館ベストのタイヤ・ホイール販売が増収に寄与。しかしながら、営業損益においては、Gooシリーズの刊行回数減少等に伴う減益に加え、GooPitの事業規模拡大に向けた人件費等の増加、(株)オートウェイ・PROTO MALAYSIA・台湾寶路多が減益となったこと等により、セグメントにおいては増収・減益となった

■生活関連情報：

主に(株)プロトコーポレーションのカルチャー情報事業が減収・減益となったものの、医療・介護・福祉分野において(株)プロトメディカルケアが増益となったことから、セグメントにおいては減収、営業損益は前年並みの水準となった

2016年3月期 第3四半期 連結業績(自動車関連情報)

自動車関連情報商品区別売上高 (単位：百万円)	2014年 4-12月：実績	2015年 4-12月：計画	2015年 4-12月：実績	前期対比	前期対比(%)	計画対比	計画対比 (%)
情報誌事業	9,118	8,679	8,464	▲653	92.8%	▲214	97.5%
IT事業① (データBiz)	9,618	10,768	10,176	558	105.8%	▲592	94.5%
IT事業② (EC物販)	9,005	13,894	13,282	4,277	147.5%	▲611	95.6%
その他事業 (物販等)	5,459	4,664	5,432	▲26	99.5%	767	116.5%

■ 情報誌事業 基本広告掲載料：

- ・ 前期対比では、主にGooシリーズ刊行回数の減少に伴う減収、PROTO MALAYSIA Sdn. Bhd.における減収（2015年4月からのGST（物品・サービス税）導入による市況低迷）
- ・ 計画対比では、主にPROTO MALAYSIA、台湾寶路多の広告収入が計画を下回った

■ IT事業①（データBiz）：

- ・ 前期対比では、主に(株)プロトコーポレーションにおけるメーカー・ディーラー向け商品・サービス（新車商談ツール等）による増収、MOTOR GATE関連の増収、GooPitによる増収
- ・ 計画対比では、主にMOTOR GATE取引社数の計画未達、GooAUTO事業の撤退による計画未達、GooPitの有料化の遅れによる計画未達となったこと等から、売上高が計画を下回った

■ IT事業② EC物販：

- ・ 前期対比では、主に(株)タイヤワールド館ベストの子会社化による増収
- ・ 計画対比では、暖冬の影響により、主に(株)オートウェイの輸入タイヤ販売（スタッドレスタイヤ等）が計画を下回った

■ その他事業 物販等：

- ・ 前期対比では、主に(株)キングスオートの香港向け中古車輸出の低迷により減収
- ・ 計画対比では、主に(株)キングスオートのミャンマー向け中古車輸出が好調に推移し、売上高が計画を上回ったことに加え、(株)プロトコーポレーションにおける中古車販売店向けの物販等が堅調に推移

2016年3月期 第3四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2015年3月期		2016年3月期		増減 (B-A)
	期末 (A)	(構成比)	第3四半期末 (B)	(構成比)	
流動資産	21,743	52.1%	23,089	52.8%	1,346
固定資産	20,007	47.9%	20,668	47.2%	660
流動負債	10,962	26.3%	12,520	28.6%	1,557
固定負債	3,116	7.5%	3,184	7.3%	68
純資産	27,672	66.3%	28,052	64.1%	379
総資産	41,751	100.0%	43,757	100.0%	2,006

(単位：百万円)	2015年3月期		2016年3月期		増減 (B-A)
	期末 (A)	(構成比)	第3四半期末 (B)	(構成比)	
現金及び現金同等物	12,431	29.8%	12,505	28.6%	73
有利子負債	6,231	14.9%	6,633	15.2%	401
ネットキャッシュ	6,200	14.8%	5,871	13.4%	▲328

■ 流動・固定資産：

主に新規連結した(株)タイヤワールド館ベストのたな卸資産が増加

主に(株)タイヤワールド館ベストののれんが増加

■ 流動・固定負債：

主に(株)タイヤワールド館ベストの支払手形が増加、同社株式取得を目的とした(株)プロトコーポレーションの短期借入金が増加

2016年3月期 第3四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2014年 4-12月 実績	2015年 4-12月 実績	前期対比	前期対比(%)	参考： 2015年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	4,667	3,191	▲1,475	68.4%	6,577
投資活動による キャッシュ・フロー	▲636	▲2,480	▲1,843	-	▲914
財務活動による キャッシュ・フロー	▲3,178	▲552	2,626	-	▲4,821
現金及び現金同等物の 期末残高	12,004	12,104	99	100.8%	12,030

(単位：百万円)	2014年 4-12月 実績	2015年 4-12月 実績	前期対比	前期対比(%)	参考： 2015年3月期
投資額（有形・無形固定資産）	698	2,610	1,912	373.9%	1,113
減価償却額	645	761	116	118.0%	879
のれん償却額	689	768	79	111.5%	926

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー：

主に税引前当期純利益の減益に加え、タイヤ等のたな卸資産の増加、消費税税率変更によって消費税等の納付額が増加したことなどから、前期対比▲1,475百万円となった

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー：

主にタイヤワールド館ベストの株式取得に伴う支出により、前期対比▲1,843百万円となった

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー：

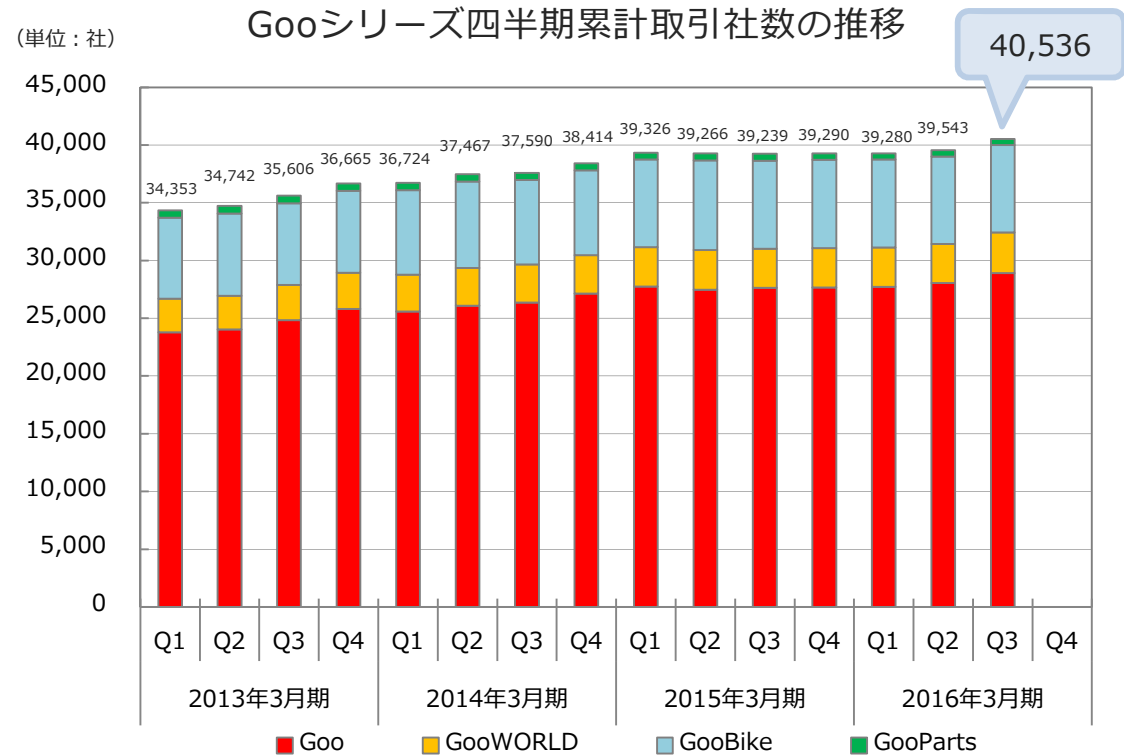
主に(株)プロトコーポレーションにおける借入実行等により、前期対比+2,626百万円となった

Gooシリーズ取引社数等の推移

■ Gooシリーズ

(国産車・輸入車・バイク・パーツ)

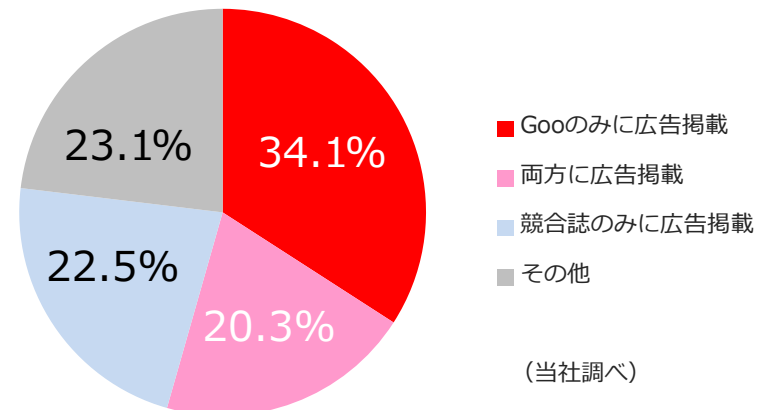
Gooシリーズ累計取引社数（4-12月累計）は前年同期対比101.3%、1ヶ月あたり平均取引単価（4-12月累計）は前年同期対比100.4%となった。
Gooシリーズカバー率は、52.9%（2014年12月）から54.4%（2015年12月）と1.5ポイント増加。



■ MOTOR GATE取引社数 (Goo,GooWORLD)

- ・ 取引社数10,948社（2015年12月末）
- ・ 通期計画進捗率 99.5%
- ・ 取引社数シェア 54.4%

取引社数シェア（2015年12月末）
（※集計基準：情報誌「Goo」に広告掲載した中古車販売店数）



GooPit・DataLine SalesGuideの状況

■ GooPit取引社数の状況

- ・加盟工場数 7,705工場（2015年12月末）
- ・通期計画進捗率 77%

引き続き加盟工場数の拡大を推進し、専業工場に加え整備工場を併設する用品量販店・ガソリンスタンド等の大手団体の加入が加速。

参考：GooPit加盟工場数の四半期純増数

- ・2015年4-6月 +375社(+125社/月)
- ・2015年7-9月 +1,835社(+611社/月)
- ・2015年10-12月 +3,768社(+1,256社/月)

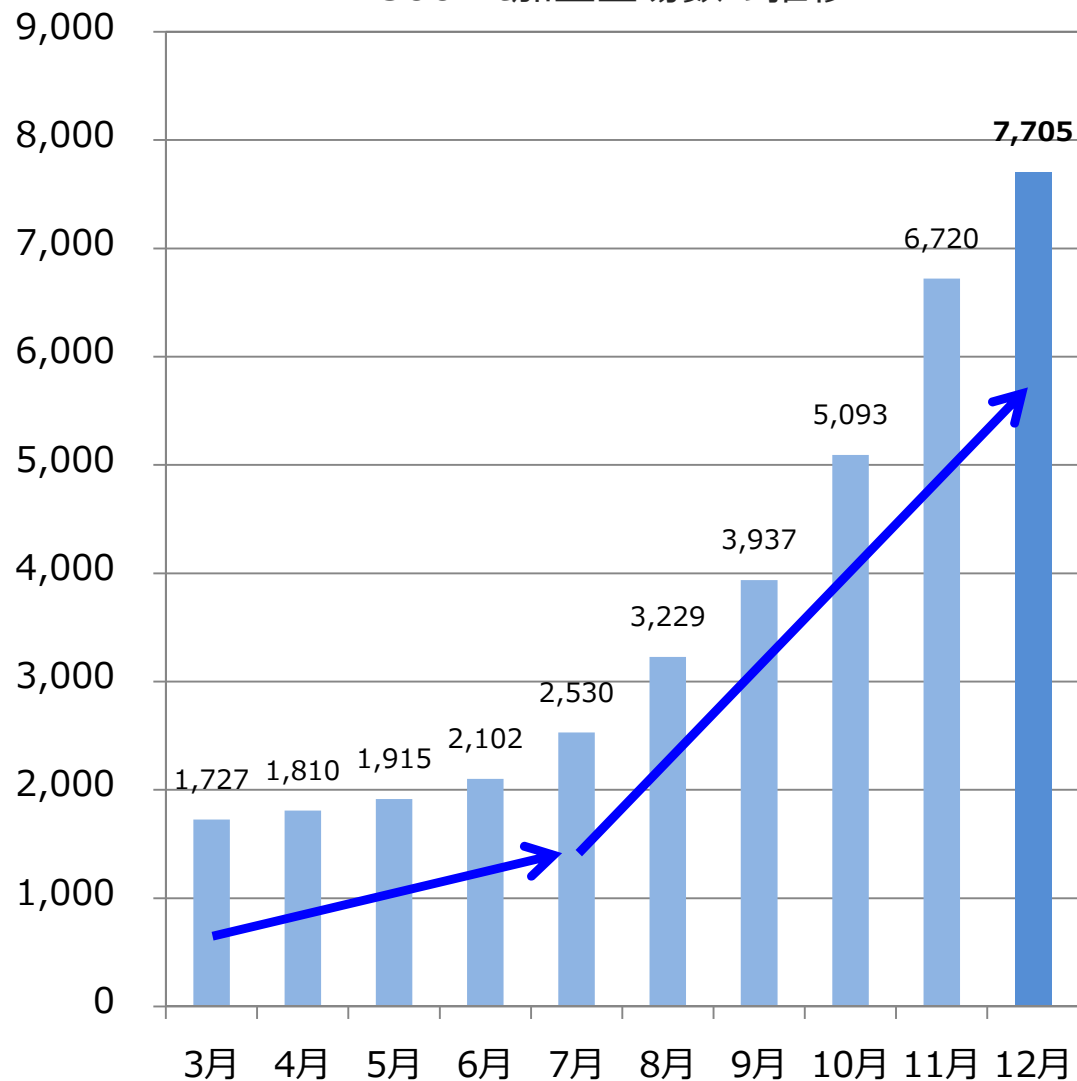
■ DataLine SalesGuideの状況

- ・導入拠点数 2,420拠点（2015年12月末）

参考：2015年3月末実績 1,398拠点

(単位：工場)

GooPit加盟工場数の推移



※ 本資料に記載の金額は、全て百万円未満を切り捨てて表示しております。

◆将来予測について

本資料で提供されているIR情報には、将来の見通しに関する情報が含まれています。

これら歴史的事実以外の情報は、当社グループが属する業界の競争、市場、諸制度に係るリスクや不確実性による影響を受ける可能性があります。その結果、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び推測に基づく見込みは、将来における実際の成果及び業績とは異なる場合があります。これを、ご承知おきください。

◆本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先

株式会社プロトコーポレーション 経営企画室 鈴木、高林

Tel : 052-934-1519

Mail: 4298ir@proto-g.co.jp